

基本情報

時間割コード/Course Code	211861
開講区分(開講学期)/Semester	秋～冬学期
曜日・時間/Day and Period	水 2
開講科目名/Course Name (Japanese)	社会理論特講
教室/Room	人/東207講
開講科目名(英)/Course Name	Social Theory
定員/Capacity	0
ナンバリング/Course Numbering Code	21HUSC5D207
必修・選択/Required/Optional	
単位数/Credits	2.0
年次/Student Year	1,2年
分野/Field	
担当教員/Instructor	野尻 英一

詳細情報

講義題目/Course Name	現代社会の基礎理論を学ぶ
開講言語/Language of the Course	日本語
授業形態/Type of Class	講義科目
授業の目的と概要/Course Objective	<p>本講義の目的は、社会理論の基礎テキストを学ぶことによって、現代の文明社会のもつ基本構造としての西欧近代制の本質について理解することである。現代文明の構造を理解するには、①われわれの倫理観や文化表象の示す特性という〈主観〉の次元から入るアプローチと、②社会・歴史の構造という〈客観〉の次元から入るアプローチがあるが、この講義は②の手法、すなわち社会・歴史の客観的な構造・形式について学ぶ。</p> <p>現代の文明やグローバリゼーションの基本構造を理解するには、資本主義について理解しなければならない。講義では、主テキストとして米国シカゴ大学の社会理論の泰斗モイシェ・ポストンの『時間・労働・支配』を取り上げる。本書は、マルクスの資本主義論を政治的な党派性から切り離し、現代社会理論として解釈し直した名著である。著者の提起する西欧近代制の本質である、資本主義における抽象的価値および抽象的時間による社会支配と、それがもたらす動態性についての理論を学んでいく。著作の基本テーゼ、背景の解説、内容の解説を行い、また適宜、取り上げられている社会理論の古典思想（古典派経済学、十九世紀社会学、マルクス、ウェーバー、フランクフルト学派、フーコーなど）についても講義する。</p> <p>講義科目ではあるが、受講生の内容理解を高めるため部分的にゼミ形式とし、毎回テキスト該当範囲や基礎事項についての簡単な発表（5-10分程度）を担当者に行ってもらおう。</p>
学習目標/Learning Goals	西欧近代制の核心としての抽象的時間による支配とそれがもたらす動態性について理解し、論述することができる。

履修条件・受講条件/Requirement / Prerequisite	
授業計画/Class Plan	<p>※授業計画は暫定的なものであり、当該年度の日程等にあわせて変更の可能性がある。</p> <p>第1回 イントロダクション ポストン理論の基本図式 第2回 『時間・労働・支配』を読む 序文・第1章① 第3回 『時間・労働・支配』を読む 第1章② 第4回 『時間・労働・支配』を読む 第2章 第5回 『時間・労働・支配』を読む 第3章 第6回 『時間・労働・支配』を読む 第4章 第7回 『時間・労働・支配』を読む 第5章 第8回 『時間・労働・支配』を読む 第6章 第9回 『時間・労働・支配』を読む 第7章 第10回 『時間・労働・支配』を読む 第8章① 第11回 『時間・労働・支配』を読む 第8章② 第12回 『時間・労働・支配』を読む 第9章① 第13回 『時間・労働・支配』を読む 第9章② 第14回 『時間・労働・支配』を読む 第10章 第15回 『時間・労働・支配』を読む まとめ</p>
授業外における学習/Independent Study Outside of Class	受講者はすべて教科書（下記邦訳）を購入し、次回授業の範囲を読み、予習しておくこと。
教科書・教材/Textbooks	<p>モイシェ・ポストン『時間・労働・支配: マルクス理論の新地平』白井聡・野尻英一監訳、筑摩書房、2012年、6,480円 （原書：Moishe Postone, Time, Labor, and Social Domination: A Reinterpretation of Marx's Critical Theory, Cambridge University Press, 4,073円）</p>
参考文献/Reference	
成績評価/Grading Policy	期末レポート100%
コメント/Other Remarks	専門書を学期中に通読する体力と熱意を要求される授業である。知的積極性を持つ学部上級生および大学院生を歓迎する。
特記事項/Special Note	講義・発表は日本語で行ない、解説資料（プリント）も日本語で配布する。したがって受講するには少なくとも中級程度の日本語力は必要である。ただし主テキストは原著が英語であるので、留学生も英語テキストを読むことで参加することが可能である。その場合、プレゼンテーション、議論やレポート提出は英語で行なっても良い。現代的な『資本論』解釈を理解することのできる授業なので、興味のある留学生はぜひ参加してほしい。
受講生へのメッセージ/Messages to Prospective Students	<p>①われわれの倫理観や文化表象の示す特性という〈主観〉の次元から入り現代文明の構造を理解するアプローチについては「文明動態学（学部）/文明動態学特講（大学院）」、およびその続篇としての「比較文明学（学部）/比較文明学特講（大学院）」で行っている。本講義と補完的な内容となっているので、興味のある学生は受講すると良い。</p> <p>難易度は、おおむね、文明動態学（学部2年生向き）→比較文明学（学部3年生向き）→社会理論（学部4年生、大学院生向き）の順となっている。内容も発展的に連動しているので理解の面からもこの順での履修が望ましい。ただし学ぶ意欲があれば、どこから取ってもよい。</p>

